

監事ご挨拶

丸毛 啓史

この度、日本整形外科学スポーツ医学会の監事に選任されました。監事は法人の財産や理事の業務執行の状況を監査する立場であります。松本秀男理事長をはじめ、理事各位と意思の疎通を図りながら業務運営の実施状況を把握し、運営上の課題認識を深め、常に公平

不偏の立場で職務を遂行してまいります。

微力ではありますが、本学会の発展のために尽力いたしたいと存じますので、皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

武藤 芳照

前期に引き続き、本学会の監事を務めさせていただくことになりました。名誉会員、理事、代議員、会員の先生方には、何卒宜しくご高配を賜わりますようお願い申し上げます。

元々、私は、中学・高校・大学時代に水泳部に所属して、長年スポーツ活動に親しんだという縁で、医学生時代からスポーツ医学を志し、名古屋大学整形外科学教室（中川 正教授:当時）の門を叩き、整形外科スポーツ医学の道に入りました。

大学院学生1年の折、杉浦保夫助教授（当時）と共に、本学会の前身である第2回整形外科学スポーツ医学研究会（1976年、東京：岸記念体育会館）に初めて参加して以来、約40年、東京厚生年金病院、東京大学、日本体育大学と所属は変わりましたが、一貫して本学会に深く関わらせていただきました。この間、本学会を通して、大学や医局の枠を超えて、数多くの先輩・同輩・後輩から様々なことを学んできました。また、疲労骨折、水泳障害等の学会発表、論文執筆、共同調査研究等を介して、全国の新たな仲間づくりができたのも、本学会のおかげです。

平成20（2008）年7月4日（金）、5日（土）の2日間、「スポーツ外傷・障害のメカニズムと予防」をメインテーマとして、第34回学術集会の会長を務めさせていただくと共に、その内容を『スポーツ医学実践ナビ-スポーツ外傷・障害の予防とその対応-』（日本医事新報社、2009年）の単行本として発刊できました。

振り返ってみれば、私が昭和50（1975）年3月、大学医学部を卒業して以来の一人の医師としての歩みと、本学会の歴史の歩みが同じであるのは、縁と運の賜物と感じています。

そうした本学会への強い愛着と深い感謝の念を抱いている私としては、二期目となる監事の役目は大変光栄であると共に、本学会への恩返し之机会と思っています。

松本秀男理事長をはじめ、理事の先生方の日常の業務執行を見守りつつ、規則と手続き面の立場から、公平・公正な運営がなされるように、誠実に尽力することが使命と認識しております。また、一人ひとりの会員が、「本学会に入会して良かった」と率直に思っただけのような学術組織の基盤づくりに、いささかなりとも貢献できれば幸いです。